



総合順位 10 位以内へ向けて

大阪産業大学 学生フォーミュラ参戦プロジェクト
OSUrcing
<http://osugformula.web.fc2.com/>



今回の総合結果・部門賞

●総合 26 位

Profile チーム紹介・今までの活動

私達、大阪産業大学 学生フォーミュラ参戦プロジェクトは今年で発足8年目を迎えます。今年度、私達は総合順位 10 位以内を目標として活動してきました。メンバーは経験の浅い3回生と2回生で失敗ばかりでしたが頑張ってきました。

Team-member チームメンバー

友金 輝 (CP)

上田 博之 (FA)、丸山 太加志 (FA)、
元根 義和、松本 拓也、横山 直輝、大田 薫、
古川 晃輝、堤 圭司、西田 大真、芝原 康起、
林 智義、植村 崇史、森田 正明、田村 友一、
景山 葵、磯口 謙太郎、上田 大貴、
尾浦 健太郎、小川 隆星、木寺 若苗、
木元 康太、櫻井 慎吾、深川 敬史、
宮口 真一朗、松本 渉、山田 崇弘

Sponsors スポンサーリスト

大阪産業大学、川崎重工業、RSタイチ、ウエダ、
NTN、F.C.C、クニ・ケミカル、ダウ化工、
三和メッキ工業、砂山製作所、スポーツランド生駒、
住友電装、SolidWorks、大東ラジエータ工業所、タカタ、
タニ・アイアンワークス、日信工業、マツダ、ミスミ、
メガテック、モリヤス・アイアンワークス、RAYS、
和光ケミカル、丸八、アルテクノ、プレニー技研、
アルテアエンジニアリング、マズワークス・ジャパン、
プラスミュー

Presentation プレゼンテーション

マシン名: OSUF-14R

今年度は昨年度の問題点を分析することでコンセプトを「全ての動的種目で順位を向上させる」と掲げました。これを実現するために今年度の車両では、軽量化とヨー慣性モーメントの低減をいちばんの目標に掲げて、これまで4年間踏襲してきたパッケージレイアウトを抜本的に見直しドライバーをアップライトポジションよりに、フレーム全長を大幅に短縮、ステアリングギヤボックス位置の変更などを行うことでマスの集中化を図りました。

また、アップライト、ベルクランクを昨年度まではアルミ削り出しでしたが今年度は低コスト化、剛性の向上のため鋼材を溶接する構造としました。新規部品については全て目標重量を設定しCAEを活用して各部品の徹底的な軽量化を行いました。これにより運動性能を向上を図りました。また、新規設計の吸気系と排気系はCAEを用いて充填効率が向上する形状となっており出力向上を図りました。

Participation report 参戦レポート

今年度、私たちは全種目完走のみに留まらず、表彰台に登ることをめざし大会に挑みました。チームメンバーの思いとしては、昨年度大会でのコスト審査不合格の無念を晴らすべく例年とは違った特別な想いを抱きながら大会に臨みました。

今年に入ってから、設計・製作が思うように進まず、車両完成がシェイクダウン証明当日となり、テスト走行が1回しか行えておらず、マシンの信頼性確認しかできずセッティングやドライバー習熟、大会を想定した動きに時間を費やすことができませんでした。ドライバーに関しては、二回生メンバーがひとり増え、カート練習から始まりスキッドパッドの練習を重点的に行って参りました。

そして迎えた大会当日、当チームは1日目に指定校車検があり受ける予定でしたが車両準備が進まず指定校車検を受けることができなかったため、2日目に技術車検を予定し1日目は車検対策に時間を割きました。そのため、2日目では車検を一発合格で通過できました。動的審査においては、スキッドパッド・アクセラレーション・オートクロスとトラブルなく順調に進みました。エンデュランスでは、雨の影響で出走時間が遅れましたが車両チェックを行う時間ができ、走行に臨みました。

そしてチームメンバーが見守る中、燃費が気になりましたが何とか完走を果たすことができ、メンバー一同歓喜に包まれました。

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/12th/movie/17.html>